**小学生(低)礼拝12月②**

**イエス様の十字架**

今回は、イエス様の十字架、というお話をします。

イエス様は神様の子として、この地に生まれました。しかし、最後は十字架でなくなります。

十字架というのは、当時のイスラエルでは、とても悪いことをした人に対して行う処刑方法です。なぜ、イエス様は十字架で亡くなったのでしょうか。イエス様は悪いことをしたのでしょうか？

もちろん、イエス様は悪いことはしていません。実は、これには神様の悲しい涙があるのです。そして、イエス様の愛の物語があるのです。今日はこのことについて、お話しします。

いままで話してきた通り、イエス様は、神様の子として、神の愛を伝えるために、様々な人に愛を施しました。神様のことを教えたり、時には、病人を奇跡で治したりもしました。人々はとても喜びました

。

しかし、このようなイエス様のことをよく思わない人がいました。それが、祭司長や律法学者と言われる人たちです。この人たちは、もともとユダヤの人々に神様のことを教えていました。しかし、イエス様がもっともっと詳しく、神様のことを知っていたので、嫉妬したのです。そして、自分たちの弟子が、すべて奪われてしまうのではないかと、不安になりました。そこで、恐ろしいことに、イエス様を殺してしまおうと考えたのです。

律法学者たちは、どうしたらイエス様を殺せるか、考えました。その時、イエス様の弟子の中にユダという人物がいました。ユダは、実は弟子でありながらも、イエス様のことを、憎んでいたのです。律法学者たちは、そのユダの悪い心を利用しました。

「イエスを裏切りなさい。そうしたら銀貨30枚を渡そう」

そして、ユダは、イエス様を裏切ることを決めてしまったのです。

ある日の夜、イエス様は一人でお祈りをしていました。すると、ユダにつれられて、祭司たちがやってきました。イエス様を捕まえるためです。捕まったイエス様は、裁判にかけられます。祭司たちは、イエス様は「自分のことを神の子だと嘘をついた」と裁判官にいいました。裁判官もそれを信じてしまい、イエス様は「十字架」につけられることが決まってしまったのです。

イエス様が神の子であることは本当のことですね。それなのに、これが罪だというのです。

祭司たちの心には、サタンが入っていました。サタンは、イエス様が神様の世界を造るのを、なんとか防ぎたかったのです。

そしてついに、イエス様は、十字架にかけられてしまいました。人々は、イエス様のことを笑いました。「自分が、神様の子だなんて嘘をついた！」

みんながイエス様に向かって言いました。こんな、ひどい仕打ちをされて、イエス様はどう思ったのでしょうか？「自分は何も悪いことはしていない！それなのに、こんなひどいことをするなんて！みんなを呪ってやる！」と、言ったでしょうか？

イエス様はそんなことは言いませんでした。イエス様は、自分を十字架につけ、わらっている者たちのことを決してうらんだりはしなかったのです。イエス様は、十字架につけられながらも「神様、どうぞこの人たちを許してください。自分がしていることが悪いことだということを分からないでいるのです。」とお祈りされました。

そして、息を引き取られる前に「天のお父様、私の魂をあなたにゆだねます」と言われました。自分を殺そうとしている人のために祈られたイエス様こそ、真の愛の人なのです。

サタンはイエス様さえいなくなれば、神様の国は、もうできないと考えていました。もしイエス様が、死を恐れて、神様を恨んだら、もしくは自分を殺そうとする祭司たちをうらんだら、もしくは自分を裏切ったユダを恨んだら、サタンの勝ちでした。しかしイエス様はだれも恨みませんでした。自分を殺そうとした人のために祈ったのです。そして最後まで神様を愛したのです。イエス様の、神様を愛する思いには、サタンも負けました。

イエス様は最後にはサタンに勝ったのです。

このようなイエス様の愛の勝利によって、真の父母様が、再臨主としてこの地にくることができるようになったのです。皆さんも、イエス様のように真の愛を持った人に成長していきましょう！